

浦和実業学園中学校 一年 新井 海羽

「習字の筆、すずり、絵具のパレットは家で洗ってきいや。」これは私が神戸市の小学校に転校して、先生に言われて最初に驚いた言葉でした。なぜだろう？学校で洗ってはいけないの？と疑問に思っていました。

そして、その疑問が明らかになったのは、神戸市で毎年一月十七日に行われている一九九五年に起きた、阪神・淡路大震災の授業の時でした。

私は、父親の転勤で神戸市の小学校に三年間通いました。その時に最も思い出深い授業がありました。四年生の時の担任の先生自身が、六年生の時に阪神・淡路大震災で被災した当時の様子を語ってくれた授業です。その中でも水に関する情報は衝撃的でした。先生は、地震で自宅が倒壊し避難所生活を強いられていました。一日一人あたり二リットルの水で生活しなければならなかったそうです。二リットルの水で、歯みがき、洗顔、飲水、体を拭く、トイレを流すという行為は、節水よりも厳しく、時にはトイレもがまんしたほどだったそうです。お風呂は、二ヶ月に一回遠くの施設まで車で二時間かけて行っていたとの事でした。

この授業を受けた後、水の大切さと先生の節水への思いを強く感じました。実際に震災で水を自由に使う事ができなかった、苦しくつらい経験を先生だからこそ、私の心に響いたのだと思います。いつも蛇口から普通に水が出てくる事が、どれだけ恵まれていて幸せで便利なことであるのか、一方で、震災で自由に水を使用できなくなった方々の苦労は計りしれないと心が傷みました。

私は今、越谷レイクタウンに住んでいます。レイクタウンには、大きな貯水池があり、大雨や台風の際に洪水や浸水を軽減する効果がある、と社会の授業で習いました。過去の歴史から、人々はたくさんのことを学び、技術を

生み出し、自然と上手につき合っているよう努力してくれたのだと思います。反対に水不足にならないように、ダムを作ったりもしてきました。人間の生活と自然、そして水は切っても切れないくらい強く結びついていることがよく分かります。

最近、地球温暖化に関するニュースをよく耳にします。温暖化した世界では、年間平均降水量はどう変化していくでしょうか。温暖化すると、海面の温度が上昇し、大気中の水蒸気量も増えることで、海面から蒸発する蒸気量が増加します。水蒸気量の増加は、結果的に降水量の増加をもたらします。温暖化により、北極や南極の氷も溶けるので、海面も上がり、水害もたくさん起きることが予想されます。そして温暖化では、干ばつの被害も避けることができませぬ。日本では、よく台風が上陸しますが、それも昔より多くなっていると聞きます。これも地球温暖化が要因の一つであると言われていると思います。

自然災害により、いつ私達は避難生活をしたり、水不足になるか分かりません。しかし普段から備えをしたり、節水をしたり意識して生活することができます。日本は、比較的降水量が安定していて、安全できれいな水を利用し、使うことができます。しかし世界には、何時間かけて、泥水のような水しか手に入れない地域もあります。日本に住んでいて、当然のような生活ができない地域に日本の技術を伝え世界中の人々が安全な水を飲めるようになればいいと思います。その為に、私が今できることは、小さなことかもしれないけれど、まずは節水に取り組んでみたいと思います。いずれは、皆が意識して大きな動きとなつて、より人々が水と大切に、水と上手につき合っている世界を望んでいます。